

事例番号:300046

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第三部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

1 回経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 33 週 3 日 切迫早産、前期破水のため入院

#### 3) 分娩のための入院時の状況

管理入院中

#### 4) 分娩経過

妊娠 34 週 0 日

6:00 頃- 胎児心拍数陣痛図所見で胎児心拍数基線 160-170 拍/分の  
頻脈、基線細変動の減少を認める

7:02 血液検査で白血球の増加、CRP の上昇

9:03 胎児頻脈持続、陣痛発来に近いため、帝王切開により児娩出  
胎盤付属物所見 胎盤病理組織学検査で急性絨毛膜羊膜炎・臍帯炎あり

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:34 週 0 日

(2) 出生時体重:1990g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.355、PCO<sub>2</sub> 49.5mmHg、PO<sub>2</sub> 20.8mmHg、  
HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 27.0mmol/L、BE 0.9mmol/L、

(4) アプガースコア:生後 1 分 5 点、生後 5 分 7 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)

(6) 診断等:

出生当日 新生児仮死、新生児一過性多呼吸、早産児、低出生体重児

細菌培養検査(胃液・耳孔)で拡張型  $\beta$  ラクターゼ産生菌が検出  
生後 1 日 血液検査で炎症所見の上昇

(7) 頭部画像所見:

1 歳 9 ヶ月 頭部 MRI で脳室周囲白質軟化症 (PVL) を認める

**6) 診療体制等に関する情報**

〈搬送元分娩機関〉

(1) 施設区分: 診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 1 名

看護スタッフ: 准看護師 2 名

〈当該分娩機関〉

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 3 名、小児科医 2 名

看護スタッフ: 助産師 3 名

**2. 脳性麻痺発症の原因**

(1) 脳性麻痺発症の原因は、分娩前のどこかで生じた脳の虚血(血流量の減少)により脳室周囲白質軟化症(PVL)を発症したことであると考える。

(2) 胎児の脳の虚血(血流量の減少)の原因は、子宮内感染である可能性を否定できない。

(3) 児の未熟性が PVL 発症の背景因子となったと考える。

**3. 臨床経過に関する医学的評価**

1) 妊娠経過

(1) 妊娠 33 週 2 日までの妊娠中の管理は一般的である。

(2) 妊娠 33 週 3 日搬送元分娩機関において、リトリン塩酸塩注射液の開始時投与量は一般的ではない。

(3) 妊娠 33 週 3 日搬送元分娩機関にて破水、妊娠 33 週のため当該分娩機関に母体搬送したことは医学的妥当性がある。

- (4) 妊娠 33 週 3 日当該分娩機関にて前期破水と診断し、妊産婦にベクタマザンリン酸エステルナトリウム注射液を投与したことは一般的である。
- (5) 当該分娩機関における切迫早産、前期破水による入院中の管理(分娩監視装置の装着、アンピシリンナトリウム注射用の投与等)は一般的である。

## 2) 分娩経過

- (1) 妊娠 34 週 0 日 6 時 50 分の胎児心拍数陣痛図の判読と対応(内診、超音波断層法の実施、リトリン塩酸塩注射液の投与量増量、血液検査の実施)は選択肢のひとつである。
- (2) 胎児頻脈持続、陣痛発来に近いため帝王切開としたことは医学的妥当性がある。
- (3) 帝王切開決定から 1 時間 50 分で児を娩出したことは一般的である。
- (4) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (5) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

## 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸)、および当該分娩機関 NICU へ入院管理としたことは一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

#### (1) 搬送元分娩機関

リトリン塩酸塩注射液の使用については、添付文書上の投与方法に従うことが望まれる。

#### (2) 当該分娩機関

観察した事項に関しては、診療録に正確に記載することが望まれる。

【解説】本事例では、胎盤・臍帯・羊水所見について一部の記載がなかった。観察事項は詳細に記載することが重要である。

### 2) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

(1) 搬送元分娩機関

なし。

(2) 当該分娩機関

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

絨毛膜羊膜炎および胎児の感染症や高サイトカイン血症は脳性麻痺発症に関係すると考えられているが、そのメカニズムは実証されておらず、妊娠中の絨毛膜羊膜炎の診断法、治療法はいまだ確立されていない。これらに関する研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。